

INFO 01

学生・企業・地域がつながる
「鳴尾ふれあいイベント2023」開催決定!!

5月27日(土)
開催場所 武庫女ステーションキャンパス、鳴尾駅前公園 ほか



学生と企業による企画会議 昨年の武庫川女子大学による書道パフォーマンス

武庫川女子大学の学生と地元企業が協力して企画・運営する「鳴尾ふれあいイベント」が今年も開催されます。前回好評だった学生による和・洋音楽の演奏、ダンス、書道などのステージイベントに加えて、新たにワークショップや地域連携イベントが行われる予定です。開催当日はMSCを中心に鳴尾・武庫川女子大前駅の周辺エリアが、学生・企業・地域をつなぐ交流の場に。にぎわいに溢れ、たくさんの方が楽しめる1日となるので、ぜひご参加ください! 詳しい情報は二次元コード(なるお通信の公式SNS)からご確認ください。

INFO 02

学生と企業のコラボで生まれた
期間限定メニューを5月3日まで提供

開催場所 Lavy's Café
(鳴尾・武庫川女子大前)駅高架下



武庫川女子大学で『忙しい学生生活の中でも手軽に健康的な食を楽しむ』をテーマに、日清シスコの「おいしいオートミール」を使用したレシピのコンテストを実施しました。Lavy's Caféでは、コンテストで受賞した3つのレシピ「ガトーショコラクラシック」「オムオートミール」「ヘルシー焼売風」を特別にマイティリーフのティーセットで提供。この機会にオートミール&紅茶の限定メニューをお試しください。

INFO 03

第6回「鎮守の森市」が開催!

4月9日(日) [雨天決行]

開催場所 鳴尾八幡神社(鳴尾・武庫川女子大前)駅徒歩4分



昨年9月から鳴尾八幡神社で定期的に行われているイベント「鎮守の森市」が開催されます。第6回目となる今回も神社の境内でフリーマーケットや親子で楽しめるワークショップが開かれるほか、地域の人気店も出店予定です。ぜひお越しください! 詳しい情報は二次元コード(鳴尾八幡神社奉仕会の公式SNS)からご確認ください。

イベントの詳細・お問い合わせ先等は、二次元コードから各イベントのWEBページをご覧ください。

新型コロナウイルスの感染状況によってはイベントが中止、開催内容が変更になる場合がございます。

ランチ 第6回 どこ行く?



カフェ
Cafe 食堂
Lodge



私たちが
取材しました!



(左から)武庫川女子大学
若林さん、廣原さん

鳴尾・武庫川女子大前駅を南へ出て徒歩約6分の「Cafe 食堂 Lodge」。「時間とお金に納得感のある飲食店」を作りたいというオーナーの想いで、昨年6月にオープンした。「ポークステーキのバランスプレート」1,180円は柔らかな国産豚肉を使用し、水素水で洗った野菜がたっぷりのプレート。2種のソースから味を選ぶことができるポークステーキは雑穀米

との相性も抜群だ。また、女性に大人気の「豆乳とナッツの担々麺」950円は糖質65%OFFの豆乳を使用していて、その本格的なスープを思わず飲み干してしまうお客さんも多い。店内は木を基調としたログハウスのような雰囲気、忙しい日々の中でほっと一息つける温かみのある空間だ。

読者サービス! 「なるお通信」をご提示いただくと「ミニ焼き芋パフェ」480円を100円引きでご提供。(2023年9月末まで)

Cafe 食堂 Lodge (カフェ ショクドウ ロッジ)
西宮市鳴尾町5丁目7-12 TEL.0798-39-7632
【営業時間】11:00~22:00(日曜は~21:00) / 毎週月曜(祝日の場合は翌日)と毎月最終火曜は定休日

なるお通信
配布場所

阪神電車各駅、武庫川女子大学、Lavy's Café、知るカフェみなと銀行武庫川女子大学店、みなと銀行鳴尾支店、ライフ阪神鳴尾店、西宮市鳴尾支所・高須分室、なるお会館 ほか
(配布にご協力いただける場合は阪神ステーションネットまでご連絡ください。)



※なるお通信のバックナンバーをご覧いただけます。



GOOD DESIGN
AWARD 2022

Mukojoがある街を知る

NARUO TSU-SHIN

なるお通信 「2022年度グッドデザイン賞」受賞記念号

駅から生まれる地域交流のカタチ



イラスト:北村ハルコ

Vol. 06
TAKE FREE



なるお通信 Vol.6
(2023年春号)

「なるお通信 Vol.7」は
2023年秋発行予定です。
お楽しみに!

発行 鳴尾エリアマネジメント連絡会
(株)エンリッジョン/(株)阪神ステーションネット/阪神電気鉄道(株)/(株)みなと銀行/
学校法人武庫川学院/(株)ライフインベーション/(株)ライフコーポレーション(50音順)
制作 (株)阪神ステーションネット 大阪市福島区海老江1-1-31 ☎06-6347-6601
※なるお通信に関するお問い合わせ・情報提供は阪神ステーションネットまで。
※記載の価格には消費税が含まれています。

2019年、全国でも珍しい鉄道高架下の大学施設である武庫女ステーションキャンパス(MSC)が誕生し、鳴尾・武庫川女子大前駅の駅前環境は大きく変化しました。その後、この施設を活用することを目的に鳴尾エリアマネジメント連絡会が発足。さまざまな取り組みを通じて、MSCとその周辺は大学と地元企業、地域住民の交流が生まれる場として、進化しつつあります。昨年、この取り組みが「2022年度グッドデザイン賞」を受賞したことを記念して、これまでの活動を振り返ります。

女子総合大学で学生数日本一
Mukojoがある街を知る

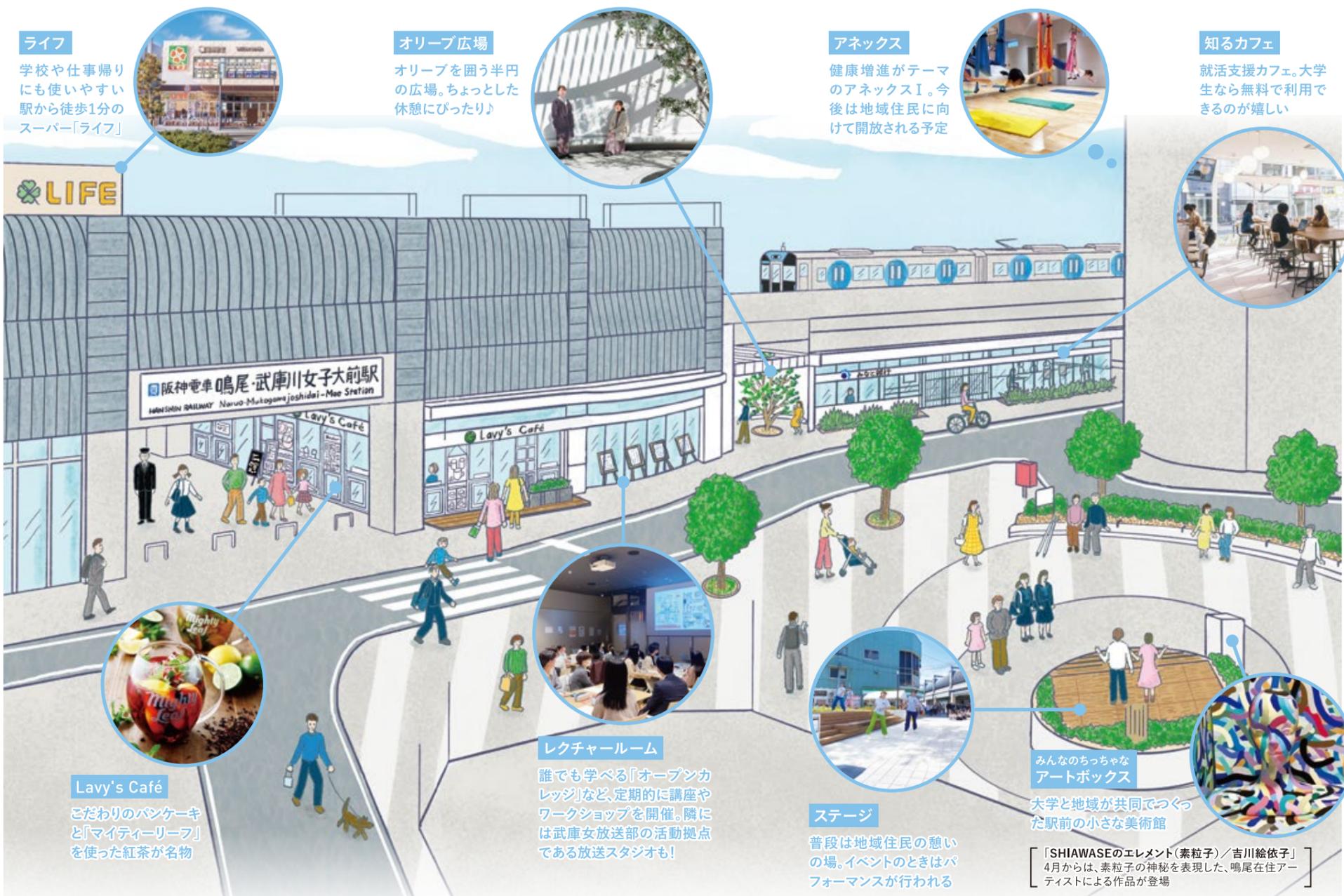
なるお通信とは…

鳴尾エリアマネジメント連絡会が発行する、鳴尾に住む人も、住んでいない人も、思わず出かけたくなる鳴尾の魅力を発信するミニコミ誌



特集

駅から生まれる地域交流のカタチ



大学 × 企業 × 地域が連携し鳴尾エリアのにぎわいを創出

2019年、鳴尾・武庫川女子大前駅の駅前環境は、武庫女ステーションキャンパス(MSC)の誕生に伴って整備され、新しく生まれ変わりました。これは、鉄道の高架化で生まれた空間を活用したい阪神電気鉄道と、大学として地域に貢献したい武庫川女子大学が駅前を学生や住民の交流が生まれる地域共生の場となるよう西宮市とも連携し、実現しました。

MSCはLavy's Café(ラビーズカフェ)、レクチャールーム、みなと銀行、知るカフェで構成され、東側には別棟のアネックスI・アネックスIIがあります。また、駐輪場として使われていた駅南側は、ステージとアートボックスがある開放的な広場に。駅北側にはスーパーの「ライフ」がオープンし、利便性が高まるだけでなく、駅の南北で往来が増えました。

さらに、MSCを中心とした駅前周辺を有効活用するため、2020年には大学・電鉄・複数の地元企業が連携する「鳴尾エリアマネジメント連絡会」が発足。さまざまな視点から鳴尾地域の魅力を伝える



©2022 hikida takumi. All Rights Reserved ©2022 aoyama kenta. All Rights Reserved

「なるお通信」やSNSによる情報発信、にぎわい創出のイベントを実施しています。昨年の「鳴尾ふれあいイベント2022」では学生実行委員会とともに企画し、西宮能楽堂や鳴尾八幡神社と協したまち歩きイベントが行われました。クイズやプログラムを通じて鳴尾エリアの歴史や伝統を学ぶなど、地域の魅力を再発見する交流も生まれています。

その他、レクチャールームでは生涯学習の公開講座や各種セミナーを開催。駅前の小さな美術館・アートボックスの作品は半年ごとに入れ替わり、武庫川女子大学の教授や学生、鳴尾ゆかりのアーティスト

が制作しています。また、アネックスIでは地域住民の健康増進の取り組みが予定されるなど、MSCという施設を活かすためのイベントや取り組みも充実し、地域の交流が継続的に行われる仕組みづくりがなされています。これからも地域共生の場として発展を続ける鳴尾エリアに、一度足を運んでみてください。



鳴尾エリアマネジメント連絡会と鳴尾ふれあいイベント2022学生実行委員会



鳴尾エリアマネジメント連絡会

鳴尾・武庫川女子大前駅周辺の良好な環境やエリア価値の維持・向上に向けて、情報発信やにぎわい創出イベントなどを実施している。

鳴尾エリア 井戸端トーク

武庫女ステーションキャンパス(MSC)の企画・設計を担当した三好教授と、MSCに入居しているみなと銀行の子守支店長に、MSCや地域貢献について語っていただきました。



武庫川女子大学 三好 庸隆 先生 生活環境学部教授 / みなと銀行 子守 一彰 さん 鳴尾支店 支店長

【 地域共生を目指して 】

三好: 地域に根ざしたみなと銀行さんなら、同じ想いで取り組めると思い入居していただきました。銀行で、普段から学生や地域住民との接点が増えるように、ロビーに勉強ができるカウンターや、武庫女生が授業で作った作品を展示できるスペースを設置しました。

子守: 地域貢献を目的に産官学が連携するMSCという枠組みができたことは渡りに船で、とても感謝しています。みなと銀行のロビーは21時まで自由に利用ができます。最近は高校生の利用も増えているのが印象的ですね。学生との関わりで言えば、武庫川女子大学生生活環境学部の学生さんとの課題解決型授業があります。「若い人にメインバンクにしてもらうにはどうすればいいか」という課題に対して、解決策を考えてもらう授業でしたが、私たちには考えつかないようなアイデアが出てきて、逆に刺激を受けましたし、いい経験になりました。

三好: それはとても嬉しいお話です。学生が考えたアイデアに対してフィードバックをいただく経験は、社会で必要な問題解決力を養えますし、いいコラボですね。

子守: MSCの誕生で周辺はとても明るくなりましたし、学生との交流も増えました。これからも多方面と協力して、地域の皆さんも巻き込んだ地域貢献の取り組みをしていきたいです。

三好: 今はこの活動を継続していくことが大切。そして5年後、10年後に振り返ったときに「いい街になったよね」と実感できたら嬉しいですね。



GOOD DESIGN AWARD 2022